稲葉周子インタビュー

4 月 7 日個展初日に稲葉周子さんのインタビューを行いました。

■陶芸を始められたきっかけや現在までのエピソードを教えて下さい。

小さい頃から手を動かすのが好きでした。
母親の影響も大きいと思います。母親が編み物をしている横で一緒に編み物をしたり工作などをしていました。

中学生の頃、自分の手で何か作って生きてゆきたいと、漠然と思いました。
高校の授業で工芸を選択し、色々な素材を学びましたが粘土が一番手の感触が良かったです。
授業で器を制作し、家族が自宅で使ってくれました。それまで描いた絵を自宅に飾った事はありましたが、自分の作ったものが使われるというのが初めてで、今までにない喜びを感じました。

大学は美術大学へ進み、デザインを考えながらのものづくりを楽しみました。
その後、多治見市陶磁器意匠研究所で学び、現在は滋賀県に工房を構え制作しています。

■作品のインスピレーションは末枯葉（すがれは）から得ているとお伺いしておりますが、詳しく教えてください。

蓮の葉が枯れた状態を見て、その美しさに衝撃を受けました。
枯れた葉は器のような形をしていて、その葉は水を取り込み、受け容れて、土に還る準備をしているようで、土に還る宿命を受けいれているような、抗っているような姿が美しいと感じました。

蓮の葉だけではなく、日々目にする枯葉も、木についている時とは違い、一枚一枚にそれぞれ個性が際立って見えてきました。その理由は葉を擬人化した表現になりますが、それぞれの葉が生きていた間に感じたり考えたりしたこと、辿った時間の現れだという思いに至り、新たに肖像シリーズが誕生しました。

■何が作陶へ向かわせるのでしょうか。

やらないではいられないのです。色々な葉に出会う度にインスピレーションを受け、葉と土の生命の循環を感じ、作りたい、作らないといけないと思います。
息をするように「作りたい」と思います。
やきものはもう土にかえらないという事実を受け止め、やきものを作ることへの責任を感じながら制作し

ています。
枯れ葉をモチーフに 10 年ほど作ってきましたが、命の強さ、儚さはベースにありながらも、枯れ葉を見て、感じることが変わってきました。
食器を作っていた初期の頃から、物理的な役割だけでなく、使う人の想いを受け止めたり、人と人をつなぐ力がうつわにはあるという考えで制作してきましたが、ある時、枯れ葉に「その考え方でいいんだよ」と受け止めてもらえた気がしたことで、それを確信することができました。
その瞬間から、作るのは食器だけでなく、概念としての'器'でもいいと思えるようになりました。
もちろん技術面の向上も大きいと思いますが、作品に対する考えがまとまったことで、最近ようやく表現したいことをつくれるようになってきました。

■制作工程について教えてください。

●オブジェと器では制作方法は違うのでしょうか。

「1 彫刻」、「2 食器」、「3 その中間の作品」と大きく 3 つに分類されるのですが、
「1 彫刻」と「3 中間の作品」は手びねり、「2 食器」は型で作っています。
型は石膏で作るのですが、筋が彫り込まれた型に土を手で押し込むので、ちから加減や土の状態により 1 点 1 点それぞれ全く同じにはならないです。

オブジェについては、手びねりでの造形後にフリーハンドでラインを引いていき、稜線を削り出し完成します。稜線を出す事は作品の中でも重量な工程で、線がオブジェの動きに沿う必要があります。
この線がなかなか決まらないこともあり、それだけで何日もかかることがあります。

（今回の個展で 12 点壁掛けを展示しております。壁掛けについての制作方法もお伺いしました。）
壁掛けについてはタタラを使い、指で線をつけます。その後曲げるなどの造形をしていきます。

稲葉さんより頂いた制作プロセス動画を HP に掲載しております。
http://www.toseigallery.com/236373103420250--exhibition.html

●磁土ではなく陶土を選ぶ理由を教えてください。

磁土は私が触ると仕上がりが硬くなってしまいます。土の柔らかさが好きで、それを出したいと思い陶土を使用しています。

●温度は何度くらいで、焼成時間はどれくらいになるのでしょうか。
また、どこの土を使われているのでしょうか。

結晶釉をかけたオブジェは、1220 度で 19 時間焼成、これ以外の作品は 16~17 時間焼成です。
6~7 年前に美濃の土と出会って、今のような作品が生まれました。

■特徴である、白色の作品は初期から表現されていたのでしょうか。

食器を作っていた頃から白色ベースでした。
枯れ葉を陶器で作りたいわけではなく、枯れ葉から受けた印象や葉脈のきれいな動きを陰翳で表したいので、枯れ葉の色にはしません。
枯れ葉色の作品だと、イメージを押し付けてしまうように感じるので、
見る人にそれぞれの受け止め方の余白を残す為にも白色の作品にしています。

■今後の作品イメージや展望についてお聞かせください

目標、目的としては一生作り続けたいという事です。
つくり続ける為にどうしたらいいかを考え、色々な活動をさせていただいています。

■国内外で定期的に作品を発表され続けていらっしゃいますが、制作活動を続ける原動力のようなものがあれば教えてください

作りたいという気持ちが常にあることです。
求められることは嬉しいので、それが原動力にもなります。